

A問題 平均正答率：69.7%（全国：72.9%） 平均無解答率：5.4%（全国：5.3%）

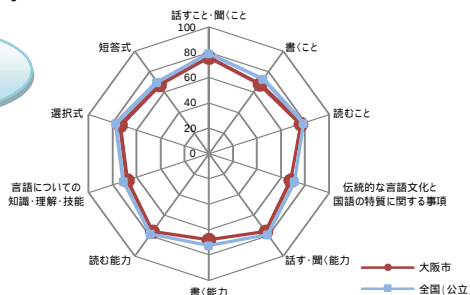
B問題 平均正答率：54.6%（全国：57.8%） 平均無解答率：4.8%（全国：4.6%）

結果チャート

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

- A問題では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「言語についての知識・理解・技能」の項目で低い値を示しています。

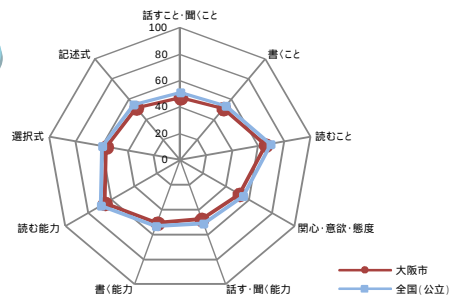
国語 A



平均正答率及び平均無解答率については、P.2 の表を参照のこと。

- B問題では、「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」の項目で低い値を示しています。

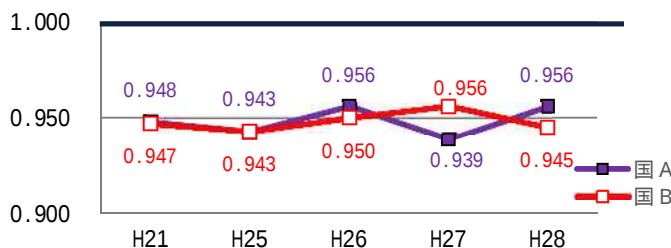
国語 B



対全国比経年比較

対全国比については、悉皆調査の平成21、25、26、27、28年度を取り上げています。

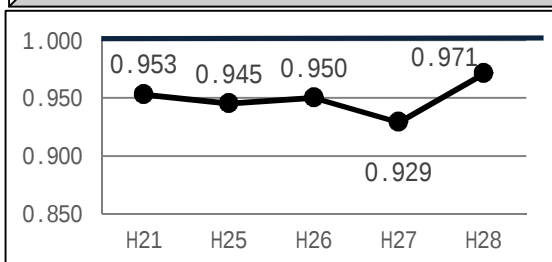
グラフは、全国の平均正答率を1としたときの国語 A・国語 B の大阪市の割合を表したものです。



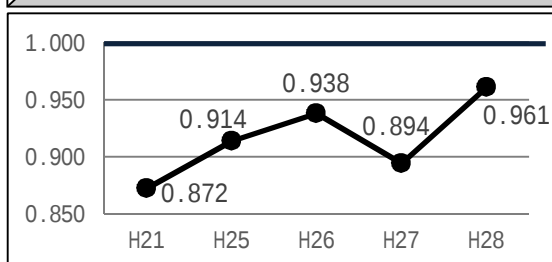
主として知識に関する「読むこと」「話すこと・聞くこと」にがんばりが見られます

- 国語 A 「読むこと」「話すこと・聞くこと」領域の問題に改善が見られます。

国語 A 「読むこと」領域の問題の対全国比



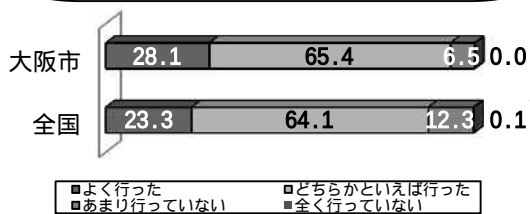
国語 A 「話すこと・聞くこと」領域の問題の対全国比



- 授業では「読む」「話す・聞く」習慣を付ける指導が行われています。

学

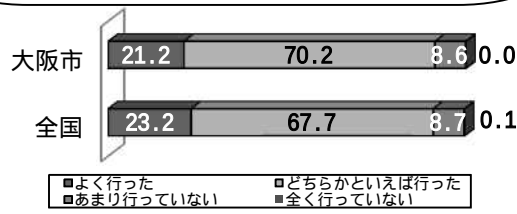
様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った
（肯定的回答 大阪市：93.5% 全国：87.4%）



肯定的な回答が全国を上回っています

学

目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った
（肯定的回答 大阪市：91.4% 全国：90.9%）

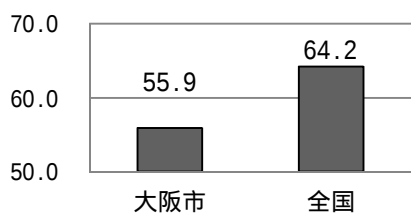


漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定することに努力が必要です

ローマ字の規則性を押さえて学習することに努力が必要です

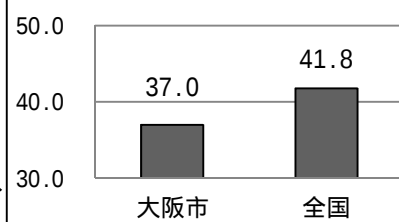
学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題の正答率

平仮名で表記されたものをローマ字で書く問題の正答率



漢字を書く問題
(先生にそうだん
する)(A1二3)

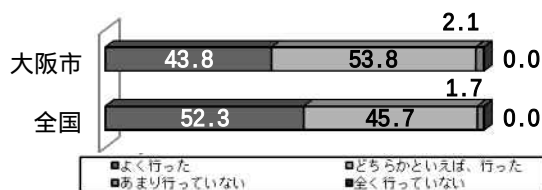
ローマ字を書く問題
(あさって)(A82)



学

漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った(肯定的回答 大阪市:97.6% 全国:98.0%)

肯定的な回答が全国を下回っています

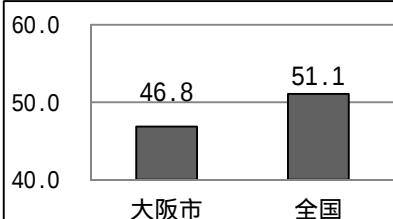


相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに努力が必要です

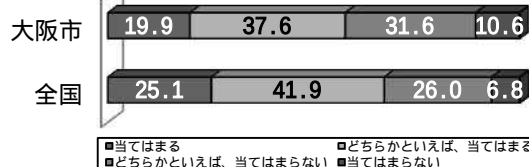
質問の意図を捉える問題の正答率

児

目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている(肯定的回答 大阪市:57.5% 全国:67.0%)



スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する問題
(B1二)



肯定的な回答が全国を下回っています

学校で

- 自分の伝えたいことに合う図表やグラフなどを活用して話すことで、説得力が生まれることを自覚できるようにします。
- 言語活動の充実を図り、話し手の意図を捉え、話す力と聞く力を育みます。
- 習熟度別少人数授業を通して、学習への意欲を高めるとともに、個に応じた指導を進めます。
- 「学習教材データの配信」などを活用し、漢字や語句の意味など、基礎的・基本的な事項の定着や知識を活用する力を育みます。

家庭で

- 地域社会にあるローマ字表示の案内や看板を読んだり書いたりするようにしましょう。
- 日常会話で相手の話を注意深く聞き、話の展開に応じて様々な内容を話すようにしましょう。
- 日々の発見や感動した出来事をノートに書きましょう。
- 興味関心のある事柄を、本やインターネットなどを活用して調べてみましょう。

効果があった取組例

- 学校独自の漢字検定を行い、漢字の定着を図っています。
- タブレット端末などのICT機器を使い、表現力・伝達力を高める取組を行っています。
- 習熟度別少人数授業や放課後学習を計画的に行い、個に応じた学習を進めています。
- 自分の考えや思いを表現する力を伸ばすため、一日を振り返る日記を書いています。
- 読書の時間を設定し、本に触れたり、読んだりする機会をもっています。

大阪市の取組

「主体的・協働的な学びの推進」(P.38)「習熟度別少人数授業の実施」(P.38)「学習教材データの配信」(P.39)「ICTを活用した教育の推進」(P.40)「学校図書館活性化事業の実施・学校図書館活用推進事業の実施」(P.41)

課題と指導のポイント

【国語 A】(主として「知識」に関する問題)

調査問題の中で大阪市の子どもの平均正答率が特に低い問題

全国と比べて平均正答率の差が大きい問題

▼ 大阪市として継続して課題がみられる問題

課題

学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと

1 二 **設問の概要** 漢字を書く。3 先生にそうだんする。〔正答率 大阪市:55.9% 全国:64.2%〕

学習指導要領における領域

〔第5学年及び第6学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

指導のポイント

漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定する

習得した漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定し、漢字を字形に注意しながら繰り返し書くことにとどまらず、日常的に文や文章の中で適切に使えるような指導の工夫が必要である。

漢字を正しく読んだり書いたりするとともに、語彙を広げるためには、辞書を利用する能力や態度を育て、辞書を利用して調べる習慣を付けることが大切である。そのためには、辞書の利用について学習する第3学年及び第4学年において、国語辞典や漢字辞典などの使い方の確実な理解を図るとともに、その利用についても意図的・計画的に指導することが必要である。

活動例

- ・ 書いた文章を読み合い漢字のもつ意味を考え正しく使用しているか評価し合う。
- ・ 同音異義の漢字や、複数の読み方をもつ読み替え漢字に注意しながら文を作り、それぞれの漢字の意味を確認する。

指導例

- ・ 必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境をつくる。
- ・ 国語科に限らず、各教科等の調べる学習の中でも積極的に辞書を利用する機会を設ける。



課題

平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすること

8 **設問の概要** ローマ字を書く。1 りんご 〔正答率 大阪市:51.3% 全国:53.2%〕

ローマ字を書く。2 あさって 〔正答率 大阪市:37.0% 全国:41.8%〕

ローマ字を読む。3 hyaku 〔正答率 大阪市:48.9% 全国:50.7%〕

学習指導要領における領域

〔第3学年及び第4学年〕 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

指導のポイント

ローマ字の規則性を押さえて学習し、生活の中で、進んで読んだり書いたりできるようにする

ローマ字にはヘボン式や訓令式などがあることに配慮しながら、仮名五十音と対応させて、ローマ字表記を使うように指導することが大切である。日本語の音節が子音と母音の組み合わせであることを意識し、五十音表の規則性を押さえる必要がある。

当該学年での学習にとどまらず、繰り返し読んだり書いたりする機会を増やす必要がある。

そのために日常生活において、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットなど、ローマ字が使われている場面と結びつけながら、子どもがローマ字を読んだり書いたりする必要性を感じることができるよう指導することが大切である。

日常生活の中で、ローマ字がどのように使用されているか調べてみよう。

学校名、名前、住所などをローマ字で書いてみよう。

駅名などローマ字表記のものを読んでみよう。



【国語 B】(主として「活用」に関する問題)

課題

質問の意図を捉えること

- 1二 設問の概要 スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する。

[正答率 大阪市:46.8% 全国:51.1%]

学習指導要領における領域

[第5学年及び第6学年] A 話すこと・聞くこと

指導のポイント

相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する

インタビューメモを基にしながらも、実際の話の展開に応じて質問の仕方を変えたり、新たな質問を追加したりすることが必要である。インタビューの目的に応じ、相手の意図は何か、自分の予想との違いは何か、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを観点として、相手の話を注意深く聞くことができるように指導することが大切である。



目的に照らし合わせて質問したいことを整理しておくことが大切です。



自分の予想と相手の答えを並べて書くと、両者の違いを考えることができる。

キーワードをメモしておくと、相手の意図をつかむことができる。



話し合う



課題

グラフを基に、分かったことを的確に書くこと

- 2一 設問の概要 ▼「早ね早起き」活動の成果について、図1の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する。

[正答率 大阪市:43.8% 全国:43.4%]

学習指導要領における領域

[第5学年及び第6学年] B 書くこと

指導のポイント

図表やグラフを基に分かったことを的確に書くことができるようにする



考え表現する

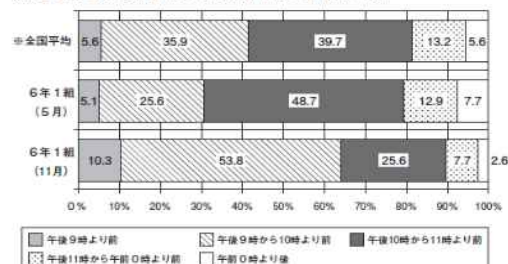
情報を正しく読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて記述することが重要である。社会科や算数科などで学習した図表やグラフの読み方を生かし、読み取ったことを的確に表現することができるよう指導していくことが大切である。自分の考えを伝えるための根拠として、文章の中で図表やグラフなどを用いる場合は、文章と関連付けながら、図表やグラフを読む必要がある。

本問における 図1 を読む際のポイント

- 1 図1は何についてのグラフなのかを確認する
- 2 グラフ中のそれぞれの情報を確認する
- 3 どの言葉や数字に着目すべきかを確認する
- 4 注目する言葉や数字の意味を考える

〈図1〉

次の日に学校がある日は、ふだん何時ごろにねますか。



（※全国平均は、文部科学省「平成26年度家庭教育的総合的推進に関する調査研究―睡眠を中心とした生活習慣と子供の自立等との関係性に関する調査―」に基づく。）

グラフを見ると10時までに寝ている人は5月より11月の方が多くなっているね。



授業の改善・充実を図る際の参考事例

「平成28年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイデア例」P.3～8
国立教育政策研究所ウェブサイト <http://www.nier.go.jp/jugyourei/h28/data/16p.pdf>